

作業学習(工芸:紙工芸)学習指導案

授業日時:令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)
対象:高等部紙工芸班6名
場所:高等部紙工室
授業者:T1 栗飯原 理恵
T2 立和名 信行
T3 福原 孝弘

1 単元名

「協力して商品作りをしよう ~新年度に向けて~」

2 生徒の実態

本学習班は、女子4名、男子2名の計6名の生徒で構成されている。言葉やカードを使い、意思疎通を図るに加え、生徒を観察したり表情を読んだりすることで、生徒の思いを汲みながら作業に取り組んでいる。個々の生徒の実態は次のとおりである。

E(1年):ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 SA6歳7か月(R7.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-1後期(R7.6) 作業の手順や説明は、簡単な言葉で伝えたり、教員が手本を示したりすることで理解できる。はさみを使って紙を細かく切る作業や、画用紙や廃紙に線を引く作業を丁寧に取り組むことができる。作業量が多いと集中力が途切れることがあるため、材料の分量に調整が必要である。
F(1年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA4歳10か月(R7.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-1後期(R7.6) 作業の手順や説明は、簡単な言葉で伝えたり、手本を示したりすることで理解できる。手先が器用で、はさみを使った細かい作業や商品(メモ帳やポチ袋)の組立、のり付けなどが一人でできる。作業に集中すると独語が多くなるが、作業効率、商品の品質の維持など一定に保つことができる。
K(2年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA1歳11か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅡ(R6.6) 作業内容は端的な言葉かけと同時に写真または絵カードで伝えるとうなずいて答える。体調や心理的な面から作業量が一定しないため、教員が傍らで見守りながら、促すようにしている。教員の支援により、紙をちぎったり、のりで貼りつけたりする活動に取り組むことができる。
Q(3年)対象生徒:ASD S-M 社会生活能力検査 SA4歳2か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-2(R6.6) 簡単な言葉の指示で作業ができる。初めての作業や難しい作業は教員と一緒に取り組んだり、手本を見たりすると取り組むことができる。教員の見守りの下、一人で紙すき用のパルプ液づくりや紙すきの作業に取り組むことができる。材料や道具の準備、片付けも、一人でできることが増えている。
T(3年):ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 SA4歳9か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-2(R6.6) 簡単な言葉での指示で作業内容や手順を理解できる。スタンプ押し、はさみを使って紙を細かく切る作業など、手先を使う作業を持続して取り組むことができる。スタンプ押しでは良品、不良品の違いを理解し、教員からの指示を受けることもできるようになった。
U(3年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA3歳9か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-1(R6.6) 絵や写真カードなどを用いた支援が効果的であり、視覚的な手がかりを確認しながら作業に取り組むことができる。作業に取り組む際、自分のやり方にこだわりを示すことがあるため、作業量や環境設定などに配慮が必要である。

3 単元設定の理由

本作業班では、年間を通じて、牛乳パックの解体、ラミネート剥がし、牛乳パックから取り出した紙や、和紙に色をつけるための色画用紙を細かく切る、またはちぎるといった紙すきの材料準備、紙すき作業、すいた和紙を使っての作品・商品作りなどを行っている。完成した作品は、各種展示会に出品し、商品は学校祭での販売や、外部講師が来校した際のお礼の品として活用するなど、実社会とつながる学習の機会となっている。

本作業班の生徒の多くは、生活介護事業所への通所を希望しており、卒業後の進路先において見通しをもち、落ち着いて過ごす力を育てることが重要である。そのため、年間を通して、視覚的手順、役割分担、構

造化(時間的構造化、物理的構造化)を取り入れ、生徒が安心して活動できる環境を整えている。また本作業班では、個々の生徒が得意とする作業や集中して取り組める作業を中心に役割を割り振ることを重視している。作業に安定して取り組む経験を積み重ねることで、卒業後の生活場面における「落ち着いて働ける力」や「自信」につながると考えている。同時に役割が固定されすぎないように、生徒の状態に応じて少しずつ作業範囲を広げることも意識している。

紙工芸の活動では、紙をちぎる・漉く・貼るなどの作業を通して、生活技能(手先の操作、道具の扱い、工程理解、衛生習慣)を身に付けることができる。また、飾りの選択などの場面を設定することで、自己決定の力を育成する。さらに、商品づくりでは、自分の作業が他者の作業とつながって一つの成果物になることを実感することで、責任感・社会性・達成感を育むことができると考え、本単元を設定した。

4 単元目標

- (1) 材料や道具の使い方が分かり、手順に沿って作業をする。 「知識・技能」
- (2) シールや飾りなどを選んだり、貼る位置を考えたりして、商品づくりをする。 「思考・判断・表現」
- (3) 自分の役割が分かり、最後まで果たそうと作業に取り組む。 「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

「協力して商品作りをしよう ～新年度に向けて～」……………全20時間
 担当する役割に沿って商品づくりをしよう ……………10時間(本時10/20)

6 本時の目標

- (1) 全体の目標
- ・担当する作業に取り組み、道具を正しく使う。 「知識・技能」
 - ・よりよい商品を作ろうと工夫したり、注意を払ったりする。 「思考・判断・表現」
 - ・自分のスケジュールを確認し、担当する作業に最後まで取り組む。 「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標

生徒名	本時の学習目標
E	・補助具を使って、画用紙に鉛筆で直線を引く。 ・作業が終了したら教員に報告する。
F	・紙すき作業で使用する手ぬぐいに、しわが伸びるようアイロンをかける。 ・作業が終了したら教員に報告する。
K	・提示された作業のスケジュールに沿って取り組む。 ・教員の支援を受けながら、目標枚数の紙をちぎる。
Q (対象生徒)	・パルプ水の厚さや水の量を見て、厚さが均一になるよう紙すき枠を動かして調整する。 ・紙すき枠を水平に保ち、脱水操作(持ち上げる・水を切る)に取り組む。
T	・決められた数の商品づくりに取り組む。 ・スタンプの文字が読み取れるように力加減を意識して、スタンプを押す。
U	・紙漉き用の廃紙(牛乳パック紙片)をほぼ同じ大きさに切ったり、手でちぎったりする。 ・材料が無くなったら、教員に追加の材料を要求する。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
1分	1. 挨拶をする。	・作業班長に号令をかけるよう促す。		
1分	2. 本時の活動内容を知る。	・本時の作業内容を個別にスケジュールで示し、1人ずつ作業内容を確認していく。	・活動内容を理解する。	・活動内容が理解できるような提示の仕方ができたか。
35分	3. 本時の活動をする。	・T1は作業開始の合図をし、E、F、Uが材料や道具を準備し、作業に取りかかるのを見守る。	・材料や必要な道具を準備し、作業に取り組む。	・材料や必要な道具を準備し、作業に取り組め

<p>【材料準備グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙ちぎり(K、U) ・線を引く(E) ・アイロンがけ(F) 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1またはT3は、Uが手元の材料が無くなった後、材料を要求したら、次の材料を手渡す。 ・T1は、Fのアイロンがけが不十分な場合や、Eが等間隔で線が引けていない場合は、指さしや言葉かけをする。 ・T3は、Kにスケジュールを提示し、写真カードを指さしながら確認する。様子を見ながら、材料を提示したり言葉をかけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料が無くなったら、教員に追加の材料を要求する。 ・しわが伸びるよう、手ぬぐいにアイロンをかける。 ・補助具を使って、画用紙に鉛筆で直線を引く。 ・教員の支援を受けながら、目標枚数の紙をちぎる。 	<p>る環境設定ができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Uが教員に要求しやすい環境設定ができたか。 ・隔々にアイロンがけできる支援ができたか。 ・Eが線を意識する言葉かけができたか。 ・Kが目標達成できる作業量に調整できたか。
<p>【紙すき作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙すき(Q) ①材料・道具の準備 ②パルプ水づくり ③紙すき ④吸水 (ローラーがけ) ⑤乾燥 	<ul style="list-style-type: none"> ・T2は、Qが紙すきに必要な道具を準備する様子を見守る。 ・T2は、Qが紙すきの材料と水をミキサーに入れた後、タイマーのスタートを押し忘れたり、水が所定の量より少ないままスイッチを入れようとする様子が見られたら、言葉かけをする。 ・T2は、Qが紙すき枠にパルプ水を流し込んだ後、必要に応じてパルプ水の厚さが均一になるよう紙すき枠を持ち上げているか見守る。そのまま水平に保ち、脱水操作ができていたら称賛する。 ・T2は、Qが脱水操作後に紙すき枠を外して和紙に手ぬぐいを敷き、ローラーがけをして吸水する様子を見守る。タオルの当て方が不十分な場合は、言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具の準備をする。 ・ミキサーのボルトに貼ってあるテープの印まで水を入れる。 ・タイマーのスタートを押す。 ・紙すき用のパルプ水の厚さが均一になるのを確認して紙すき枠を持ち上げる。 ・枠を水平に保ち、脱水操作をする。 ・ずいた和紙よりも手ぬぐいを大きく広げ、ローラーで吸水ができる。 	<p>Qが手順に沿って紙すき作業をなるべく一人でできる環境設定および支援ができたか。</p> <p>丁寧さ、正確さが意識できる効果的な言葉かけができたか。</p>
<p>【商品作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプ押し(T) ①練習用の紙に押す ②商品に押す 	<ul style="list-style-type: none"> ・T3は、Tが練習用の紙にスタンプを押した後、一緒に、良品と不良品に仕分ける。 ・T3は、文字の欠けなど不良品が出た場合、力加減を言葉で伝える。 ・T3は、Tの集中が途切れたり、作業スピードが緩やかになったりする様子が見られたら、言葉をかけ励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良品か不良品かわかり、仕分けができる。 ・文字が読み取れるように力加減を意識して、スタンプを押す。 ・決められた数の商品づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良品か不良品か判断できるような言葉かけができたか。 ・同じ力加減で作業ができるような言葉かけができたか。 ・Tが継続して取り組める作業量だったか。
<ul style="list-style-type: none"> ・片付け、清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーで作業終了を伝え、速やかに片付けおよび担当の清掃に移行できるよう、言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの切り替えをし、できるだけ自分で片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終了時間までの目標を伝え、気持ちの切り替えができるよう配慮できたか。

2分	4.本時の活動の振り返りを行う。	・各自が頑張っていたことを称賛したり、商品の仕上がりなど成果を伝えたりする。		
1分	5.挨拶をする。	・作業班長に号令をかけるよう促す。		

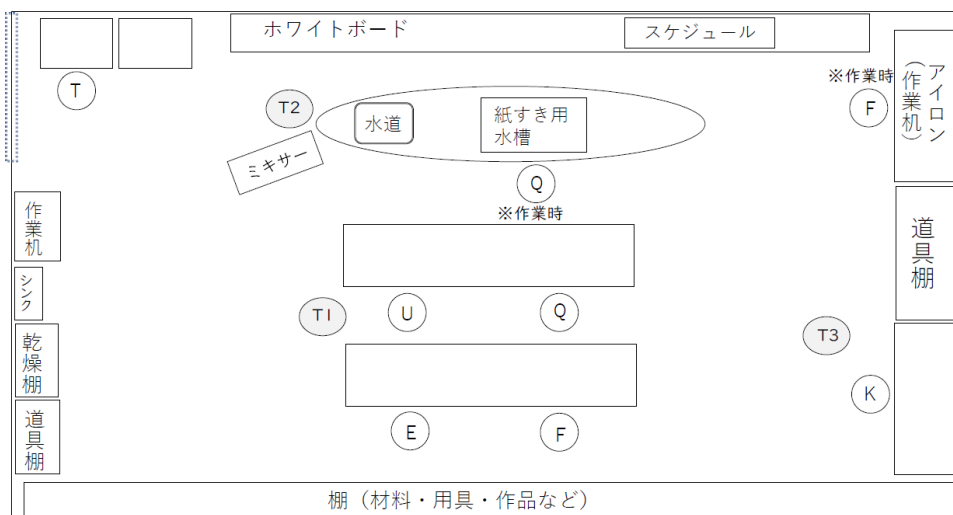
8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」についての関連

紙工芸班では年間を通して、生徒が自分の得意な作業や集中しやすい作業を役割として担うことで、安心して学習に参加できるようにしている。役割が明確で見通しをもちやすいため、活動に責任をもち、主体的に取り組む姿が育つ。また、飾りや色を選ぶといった簡単な選択場面を設けることで、「自分で決める」経験を積み、学習への自発的な関わりを促している。さらに、個々の作業が他者への作業とつながり、協力して一つの制作物を完成させる経験は、自分の貢献を実感する機会となり、学習意欲の向上につながると考える。自分らしさを大切にしながら、周り支え合って取り組む学びを積み重ねていくことで、卒業後も社会の一員として、安心して人とのつながりの中で暮らしていく力につながることを願っている。

本単元の STEAMIC の捉え(単元:◎ 本時:★)

	視点	活動内容	各教科等との関連
S	ものの変化について追求しよう	◎紙をちぎる、溶かす、すくなどの工程を通して、材料が変化することを知る。 ◎和紙を加工することで製品ができることを知る。	美術科 家庭科
T	道具の使い方を工夫しよう	◎道具や用具の基本的な使い方を身につける。 ★紙すきの道具や、アイロン、はさみ、線を引く補助具などの道具を適切に取り扱う。	数学科 職業科・家庭科
E	課題解決への仕組みをデザインしよう	◎作業の工程を理解する。 ◎役割分担に沿って、協働的に工程を進める。 ★和紙ができる工程を理解して、商品づくりに適切な和紙ができるように工夫する。	職業科 美術科
A	様々な表現方法に気づこう	◎和紙を使って表現する。 ◎飾りや色の選択など、個々が好きなものを表現する。	美術科
M	数値との関係性を見つけよう	◎見通しを持ち、順序を意識して作業に取り組む。 ★時間内で、指示された作業量を最後まで遂行する。	数学科 職業科
IC	仲間のよさを認め合おう	◎集団の一員として参加する。 ★互いの得意な力を生かしながら協力して作業をする。	道徳科 自立活動

9 教室環境図



作業学習(工芸:木工)学習指導案

授業日時：令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)

対象：高等部木工班5名

場所：木工室

授業者：T1 三ツ井 昭仁

T2 福澤 稔

T3 佐々木 健

1 単元名

「満足してもらえる木工製品をめざして～報告・連絡・相談をしながら丁寧に作ろう～」

2 生徒の実態

木工班には5名の生徒が在籍している。木工作业における個々の実態は以下のとおりである。

B(1年):発達障がい S-M 社会生活能力検査 9歳7か月(R7.8) 太田ステージⅣ-後(R7.6) ・ベルトサンダーやガスバーナーなど、作業に必要な工具の使い方を理解し、安全に使用しながら作業に取り組むことができる。 ・研磨作業や焼き印の作業では、自分で力加減を調整しながら作業に取り組めることが増えてきている。 ・作業中、必要に応じて自分から報告や相談ができることが増えてきている。
D(1年):ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 7歳3か月(R7.2) 太田ステージⅣ-前(R6.6) ・紙やすりを使った研磨作業では、磨き具合を自分で確認することは難しいが、指示された部分の角を磨くことはできる。 ・研磨作業に意欲的に取り組むことができ、作業が終わったタイミングで自分から教員に報告できる場面が増えてきている。
J(2年):知的障がい S-M 社会生活能力検査 5歳11か月(R6.2) 太田ステージⅢ-2(R6.6) ・紙やすりを使った研磨作業では、生産量の増加を優先するあまり作業が荒くなってしまうことがあるが、指示された部分の角をよく見ながら磨くことはできる。 ・研磨作業に意欲的に取り組むことができ、作業が終わったタイミングで自分から教員に報告することができる。
N(2年):レックリングハウゼン病 S-M 社会生活能力検査7歳1か月(R6.2) 太田ステージⅢ-2(R6.6) ・紙やすりを使った研磨作業では、力加減を調整したり磨き具合を自分で確認したりすることは難しいが、磨く回数を数えることや磨く部分をよく見るなどを伝えることで丁寧に磨くことができる。 ・研磨作業に意欲的に取り組むことができ、作業が終わったタイミングで自分から教員に報告できる場面が増えてきている。
W(3年):ASD S-M 社会生活能力検査10歳10か月(R5.4) 太田ステージⅣ-後(R6.6) ・ベルトサンダーやガスバーナーなど、作業に必要な工具の使い方を理解し、慎重に使用しながら作業に取り組むことができる。 ・研磨作業や焼き印の作業では、自分で力加減を調整しながら作業に取り組むことができる。 ・作業中、必要に応じて自分から報告や相談ができる。

3 単元設定の理由

木工作业班に属する生徒の進路先の希望は、就労継続支援B型事業所から一般企業・事業所と様々だが、共通していることは全員が就労を目指しているということである。そのため、社会人として働くために必要なルールやマナーなど、働くために必要な力を在学中に培ってもらいたいと考えている。

木工の作業学習では、「製品の受注→製品づくり→納品」という一連の流れを体験的に学ぶことができる。また、この活動を通して、社会人として必要な「報告・連絡・相談」の力や、作業の持続性、手指の巧緻性、安全や衛生に気を配る態度などを身につけることができる。さらに、作った製品が「誰に、どのように使われるのか」を知ることで、仕事の意義を感じることができ、納品時に感謝の言葉をもらうことで、達成感を味わうこともできる。

本単元「満足してもらえる木工製品をめざして～報告・連絡・相談をしながら丁寧に作ろう～」では、毎年地域の小学校から受注している代本板づくり、定期的に受注のあるミノづくり、そして学校行事で販売する芳香剤づくりに取り組む。これらの製品づくりの過程には、木工作業を通じて得られる技能の習得やものづくりの楽しさを体験するという教育的意義があると考えている。さらに、自分の役割を果たしながら、安全かつ効率的に作業を進めるために、適切な工具の選定や作業環境の調整を行うことも重要である。その過程で、教員との報告・連絡・相談を通じた対話や、作業中の試行錯誤を通して課題の解決方法を見つけていくことは、協働的な学びや主体的な問題解決能力の育成など、教育的に大きな意義があると考えている。

以上のことから、生徒一人一人が、卒業後の生活においても社会の一員として主体的に学び続ける力を育むことを願い、本単元を設定した。

4 単元の目標

- ・作業の内容を理解して取り組む。「知識・技能」
- ・教員に作業の報告・連絡・相談をする。「思考・判断・表現」
- ・作業効率や出来栄を考えながら、作業に取り組む。「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

「満足してもらえる木工製品をめざして～報告・連絡・相談をしながら丁寧に作ろう～」…全 55 時間
 満足してもらえる木工製品とは…1 時間
 報告・連絡・相談の大切さについて…1 時間
 満足してもらえる木工製品を作ろう…53 時間(本時 41/55)

6 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・本時に自分が担当する作業内容を知る。「知識・技能」
- ・自分が担当する作業ができた際に、教員に報告する。「思考・判断・表現」
- ・作業効率の向上や出来栄をよりよくするために、教員と相談しながら作業を進める。
 「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標

生徒名	本時の学習目標
B (対象生徒)	・自ら作業の準備をし、焼き印作業に取り組む。 ・焼き印の出来栄を教員と確認し、押す力や熱し方を相談しながら焼き印をする。
D	・自ら作業の準備をし、磨き作業に取り組む。 ・磨き作業ができたなら、教員に報告する。
J	・自ら作業の準備をし、磨き作業に取り組む。 ・教員に報告・相談をしながら、木工製品の出来栄をよりよくしようと取り組む。
N	・自ら作業の準備をし、磨き作業に取り組む。 ・教員に報告・相談をしながら、木工製品の出来栄をよりよくしようと取り組む。
W	・自分の役割を知り、作業に取り組むことができる。 ・作業の際の環境設定について教員と相談しながら決め、効率的に作業する。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
1分	1. 挨拶をする。			
1分	2. 本時の活動内容を知る。	・本時の流れが分かりやすいようにホワイトボードに作業内容を提示する。 ・それぞれの作業内容について、確認するように、T1は司会のWに言葉がけて促す。		

24分	3. グループに分かれて作業に取り組む。 ① 焼き印作業 (B) ② 磨き作業 (D、J、N) ③ 鉋掛け補助作業 (W)	<ul style="list-style-type: none"> ・T1はグループに分かれて作業を開始するよう言葉がけで促す。また、Bの作業準備の様子を見ながら、必要に応じて言葉がけを行う。 ・T1は焼き印の見本とBの試し押しを比較するように促し、適切な焼き印の押し方や熱し具合について考える機会を設定する。 ・T2は、T3に何番の紙やすりで磨くかを相談し、準備するように伝える。 ・T2は、必要に応じてD、J、Nに磨き終えた製品を入れる籠を準備するように促す。 ・T2は、D、J、Nの磨き具合について、磨く回数や触れ心地を一緒に確認しながら出来栄をフィードバックしていく。 ・T3はWに鉋掛けの補助に入るように言葉かけをする。 ・T3は、Wに木材をどのように配置するとよいかを考えるように言葉かけで促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら作業の準備をし、焼き印作業に取り組むことができる (B)。 ・焼き印の出来栄を教員と確認し、押す力や熱し方を相談しながら、焼き印の作業をすることができる (B)。 ・自ら作業の準備をし、磨き作業に取り組むことができる (D、J、N)。 ・磨き作業ができたなら、教員に報告する (D)。 ・教員に報告・相談をしながら、木工製品の出来栄をよりよくしようと取り組むことができる (J、N)。 ・自分の役割を知り、作業に取り組むことができる (W)。 ・作業の際の環境設定について教員と相談しながら決め、効率的に作業することができる (W)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1はBに、焼き印の押し方について、試行錯誤するような機会を設定できたか。 ・T2はD、J、Nに、磨き具合について、生徒自身が触れ心地や見本との比較で適切に磨くことができたかを考える機会を設定したか。 ・T3はWにスムーズに鉋掛けができる環境設定について一緒に考える機会を設定したか。
10分	4. 片付け・清掃をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・T1、T2、T3は、それぞれが指導していた生徒が使用していた道具や作成した製品を片付けるように伝える。 ・道具や製品の片付けが終わったら、生徒それぞれが作業していた場所の清掃に取りかかるように言葉がけで促す。 		
3分	5. 作業の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・T1は作業の内容や感想について、発表するように促す。 		
1分	6. 挨拶をする			

8 研究の視点と授業との関連

「主体的な学びとSTEAMIC教育」についての関連

作業学習の木工作业におけるSTEAMIC教育を、高等部卒業後もなお主体的に学び続けることのできる生徒へといかにつなげていくのかを考えた時、特にE(工学)とA(アート)が重要だと考えた。

木工作业は、保護者や本校の職員だけでなく、地域の学校からなど幅広く製品の受注をしている。これは、単純に自分たちの作りたいものだけを制作するのではなく、他者からの「必要や欲求に合致する」ように製品を製作手順に沿って作る必要がある。また、製品を安全かつ効率よく作るためには、作業する場所の環境設定を考える必要がある。そこに、教員が生徒の創造性を発揮できるような手立て、すなわち生徒の報告・連絡・相談の機会に対話しつつ、生徒が試行錯誤しながらより働きやすい環境を作り上げていく機会を保障することが大切だと考えた。

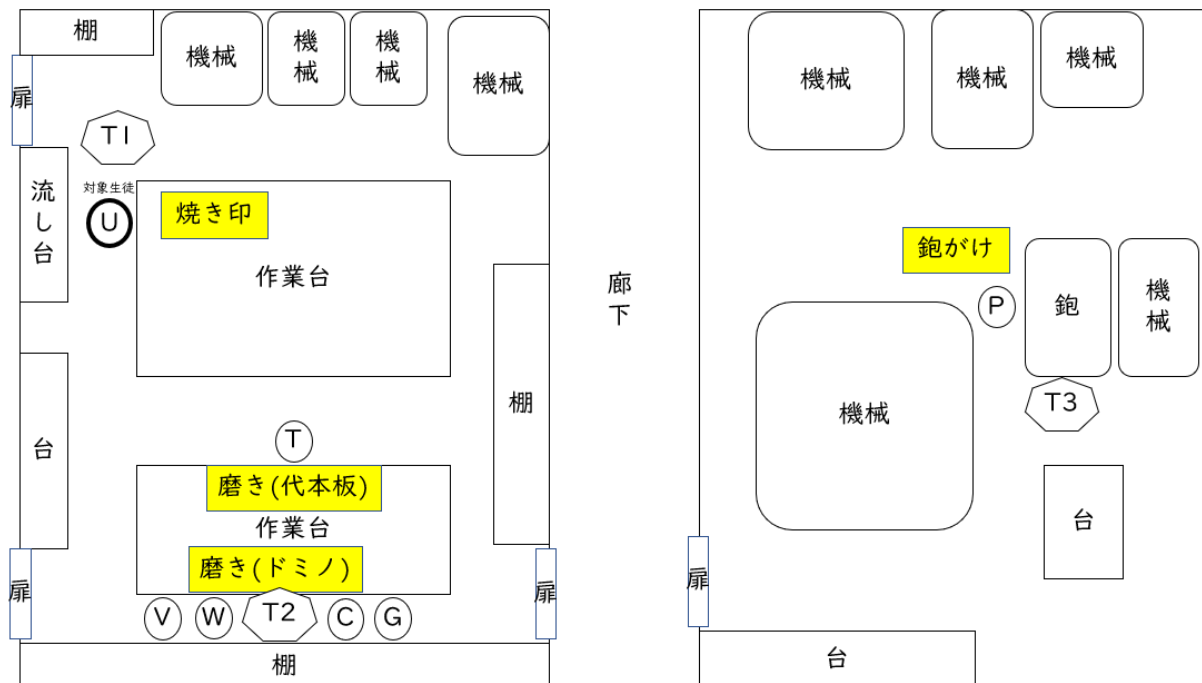
さらに、木工作业は商品としての出来栄のよさという一つの目標を掲げるが、生徒一人一人の多様さに応じて作業上生じる課題や問題の解決法(例えば、ジグの活用など)を試行錯誤しながら見つけていくことが大切である。そこには、個々の生徒が直面する障がいに対して、環境を整えることでその困難さを改善・克服することが可能であるという教員の考えが基づいている。こうした教員の障がいに対する考え方のもと、生

徒と共に学習上および生活上の困難さの解消を目指していくことが、卒業後の生活で生徒が主体的に学び続ける原動力につながると考えた。

本単元の STEAMIC の捉え (○:単元 ★:本時)

	捉え	活動内容	各教科との関連
S	知る	○受注→製品づくり→納品の流れを知る。 ★道具の使い方を知る。 ★工具の危険性について知る。	・社会科 ・技術科
T	道具	○用途に応じた工具や道具を使い分ける。 ★安全に道具を活用する。	・技術科 ・美術科
E	デザイン	○製品が出来上がる工程を知る。 ★安全かつ効率よく作業するための環境を設定する。	・数学科 ・美術科 ・理科
A	アート	★問題が発生した際に、報告・連絡・相談を通して、解決策を教員と一緒に考え、実行する。 ★用途に応じた道具を使いながら作業に取り組む。	・国語科 ・自立活動
M	数え	○受注した製品の数を数える。 ★磨く回数を数えながら磨く。	・数学科 ・美術科
IC	きょうどう	★それぞれの役割を担いながら、受注した製品を作り上げる。	・道徳科

9 教室環境図



作業学習(工芸:機織り) 学習指導案

授業日時:令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)

対 象:高等部機織り班5名
場 所:第2作業室(機織り室)
授 業 者: T1 森兼奈生子
T2 十川晶子

1 単元名

「より良い製品づくり~つかう人の立場に立ち、改良の工夫やデザインを考えよう~」

2 生徒の実態

本作業班は、男子2名・女子3名の計5名で構成されている。機織り専門指導員や教員の助言を受けながら、また必要に応じて協働しながら自分の得意な工程や作業ペースを生かし、製品づくりに意欲的に取り組んでいる。個々の生徒の実態は以下の通りである。

G(1年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA6歳4か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-1後期(R7.7) 手先が器用で、丁寧かつ正確に織り進めていくことができる。文字や絵を描くことが好きでこだわりが強く、書字や色塗りには時間をかけて取り組む。問いかけに対しオウム返しになることが多いが、選択肢があれば自分のしたい作業や使いたい材料を選ぶことができる。
I(2年):ASD精神発達遅滞S-M 社会生活能力検査 SA6歳1か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅣ-前期(R6.6) 疲れや他者との関わりがきっかけで気分が沈み、作業が止まることがあるが、周囲の励まして気持ちを直すことができる。修正の受け入れに抵抗があるが、良い製品づくりに必要な修正であると納得し受け入れられることが増えた。買い手を想像しながら、材料選択やラッピング作業等に取り組める。
L(2年):発達遅滞 S-M 社会生活能力検査 SA11歳4か月(R6.4) 太田ステージ評価 StageⅤ以上(R6.6) 手先が器用で丁寧に作業を進められるが、心理面のコンディションや体力面の課題により、作業の集中に影響することがある。下絵や製品タグのイラストを工夫し描くことができる。製品の売れ行きを見て、買い手のニーズに気付いたり、製品改良のアイデアを考えたりすることができる。
M(2年):結節性硬化症 ASD S-M 社会生活能力検査 SA7歳2か月(R6.4) 太田ステージ評価 StageⅢ-2(R6.6) 気分によって作業速度にムラがあるが、集中しているときは効率よく正確に作業を進めることができる。作業目標を意識し、自分で作業速度を調整しながら取り組める。作業を早く終わることを重視して、前は追加の作業の受け入れに抵抗があったが、目標の達成後にも追加で作業を行えるようになってきた。
R(3年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA7歳6か月(R6.2) 太田ステージ評価 StageⅢ-2(R6.6) 作業中に他のことを考えてしまい集中力を維持することに課題があるため、短いスパンで教員と進み具合を確認しながら作業を進めている。独自の豊かな世界観で、下絵のデザインができる。見本動画を見て作業したり、あらかじめ必要な糸の本数を準備したり、自分なりに工夫して作業に取り組める。

3 単元設定の理由

本作業班では、機織り機を用いた結織りや平織りによるタペストリーやコースターの製作、さらに組紐(丸四つだたみ)によるタッセルづくりに取り組んでいる。完成した製品は、学校祭や研究発表会での販売に加え、タッセルの受注販売、各種作品展への出品も行っている。また、学校行事においては外部講師へのお礼の品として工芸製品を贈呈する等、製作物が実際に人の手に渡る機会も多い。こうした活動を通して、生徒は製品を受け取った相手の反応や販売状況を知り、ものづくりの達成感を味わうとともに、社会参加の貴重な経験を積んでいる。

今年度の学校祭では新製品も含めたさまざまな製品を販売したが、その売れ行きを見ながら、生徒からは「ネックストラップが人気だね」「クリスマスオーナメントは季節限定だから売れにくいのかな」等、製品の特徴と需要を関連付けて考える発言が聞かれた。これらの気付きや疑問は、つかう人の立場に立ち、より良い製品を生み出そうとする姿勢や製品改良のアイデアにつながるものである。

本単元では、これまでの製作経験を基盤にしなが、つかう人の立場に立ったより良い製品をめざして、現在の製品を機能性、デザイン性、仕上がりの品質等の観点から見直し、製品の改良に取り組む。さらに、完成した改良製品を従来品と比較したり、第3者から意見をもらったりする活動を通して、つかう人の立場に立って製品を見直し、より良いものへとつなげていく力を高めることが期待される。こうした試行錯誤とフィードバックを重ねる一連の流れを体感することで、生徒が主体的にものづくりに向かう姿勢を育てたい。

4 単元の目標

- ・改良アイデアをもとに、材料の選択や織り方を工夫しながら試作に取り組む。「知識・技能」
- ・製品の使いやすさやデザインについて考え、改善点を見つけようとする。「思考・判断・表現」
- ・作業の進み具合や工夫した点を友達と伝え合い、より良い製品づくりに生かそうとする。
「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

- 「より良い製品づくり～つかう人の立場に立ち、改良の工夫やデザインを考えよう～」……全9時間
- 製品改良アイデアの検討……………2時間
 - 試作品の製作……………4時間(2/4本時)
 - 従来品との比較・検討……………1時間
 - 評価・まとめ……………2時間

6 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・改良アイデアに合わせて、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。「知識・技能」
- ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。「思考・判断・表現」
- ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標

生徒名	本時の学習目標
G	<ul style="list-style-type: none"> ・改良アイデアに合わせて、必要な部分で教員の支援を受けながら、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。 ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。 ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・改良アイデアに合わせて、必要な部分で教員に支援を求めながら、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。 ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。 ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。
L	<ul style="list-style-type: none"> ・改良アイデアに合わせて、必要な部分で教員に相談しながら、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。 ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。 ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。
M 対象生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・改良アイデアに合わせて、必要な部分で教員に支援を求めながら、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。 ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。 ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。
R	<ul style="list-style-type: none"> ・改良アイデアに合わせて、必要な部分で教員の支援を受けながら、材料選択や製作方法を工夫しながら試作品を製作する。 ・工夫した点や困っている点を友達に伝え、作業の進捗を共有する。 ・改良アイデアをもとに、試作に粘り強く取り組む。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
授業前	・作業ノートを入力する。	・タブレット端末 (metamoji) を使用して作業内容や本時の目標を入力 (選択) できるよう、個々の生徒に作業内容を伝えたり、目標を一緒に考えたりする。	・作業ノートに本時の作業内容や個人目標を入力する。	・作業内容をわかりやすく伝えたり、適切な目標設定につながるよう一緒に考えたりすることができたか。
—	1. 挨拶をする。	・号令係を確認し、号令をかけるよう促す。		
5分	2. 本時の活動内容を知る。 ① 本時のスケジュール、全体の目標を確認する ② 作業ノートの内容を発表する	・視覚的に本時のスケジュールや全体の目標を提示することで、本時の作業活動に見通しをもち、目標を意識して取り組めるようにする。 ・作業ノートに入力した内容 (作業内容、個人目標) を全体で共有することで、作業への意欲を高め、全員で協力して製品作りを行っているという意識をもてるようにする。	・作業ノートに入力した内容を発表したり、友達の発表を聞いたりする。	・作業活動への意欲を高めたり、友達の発表に意識を向けたりできるような言葉かけができたか。
27分	3. 改良アイデアをもとに試作品を製作する ① 作業の準備をする ② 作業を行う ③ 報告する ④ 片付けをする	・前時までに考えた「改良アイデア」メモを提示し、作業に必要な準備を行うよう促す。 ・必要に応じて、「つぎは?」「どうする?」等、生徒自身が考えて行動できるような言葉かけを行ったり、選択肢を提示したりする。 ・生徒と共に作業に取り組み、作業場に一体感が生まれるようにする。 ・生徒から報告を受けると、仕上がりを一緒に確認し、フィードバックを行う。	・改良点をもとに、困ったときに教員に助けを求める等、粘り強く作業を続けようとしている。 ・改良アイデアに合わせて、材料選択や製作方法を工夫している。 ・試作品として形になるように、必要な工程を順に進めている。	・改良点をもとに製作できるよう、適切な言葉かけや手がかりを提示している。 ・生徒のアイデアを引き出す質問や選択肢の提示を適切に行っている。 ・工程が滞った際、適切なタイミングで助言や部分的な支援を行っている。
8分	4. 今日の作業を振り返る ① 作業ノートを入力する ② 作業の進捗状況を発表する	・タブレット端末 (metamoji) を使用して、作業成果や本時の目標に対する自己評価、工夫点等を入力 (選択) できるよう、成果物を提示したり、本時の取り組みをフィードバックする。 ・作業ノートに入力した内容を全体で共有する。 ・生徒の振り返りを共有し、次時の作業 (試作品の仕上げ・改良の検討等) につなげる。	・自分の作業の進み具合、工夫点等を言葉や具体物で友達に伝えようとしている。 ・友達の話を聞き、必要に応じて反応しようとしている。	・適切な自己評価や振り返りにつながるようなフィードバックや助言ができたか。 ・生徒から友達の取組に対する感想を引き出すことができたか。
—	5. 挨拶をする。	・号令係を確認し、号令をかけるよう促す		

8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」についての関連

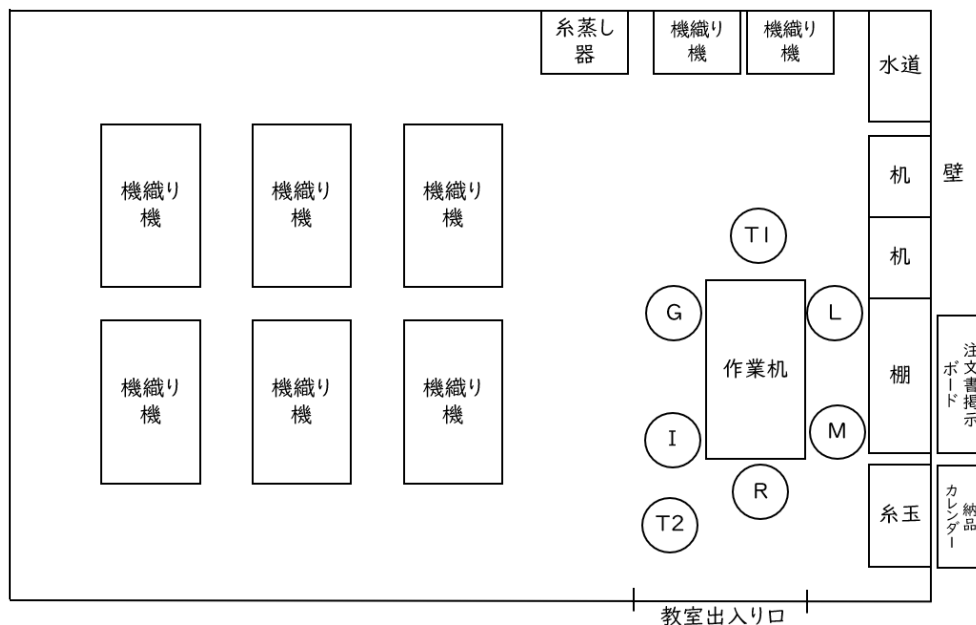
本作業班の生徒は、5名中4名が機織り歴2年目であり、機織り機の扱いにも慣れてきている。そのため、作業効率や正確性も向上しており、これからは「作れるようになる」段階から一歩進み、自分の製品をより良くするために試行錯誤する経験を積むことが重要であると考えます。

本単元において、生徒自身が製品を受け取った相手の反応や販売状況を知る機会を通して得たことを出発点とし、改良の工夫やデザインを実際に試作し具体化する活動は主体的な学びを促すことができると考える。また、つかう人の立場に立ち、「もっとこうしたい」「こうすれば使いやすくなるのではないか」と考えることは、ICの視点である「他者理解」や「社会の一員として貢献しようとする態度」の育成につながる。製品の課題を自分で見つける力や、改良のためのアイデアを形にしていける力を育てることは、生徒にとって卒業後の生活や就労場面にもつながる大切な学びとなると捉えている。

本単元の STEAMIC の捉え(単元:◎ 本時:★)

	視点	活動内容	各教科等との関連
S	ものの変化について追求しよう	◎糸を織ったり編んだりすることで模様ができることを知る。 ◎撚って蒸した糸を水に濡らすと、撚りが戻ることを知る。	美術科 家庭科
T	道具の使い方を工夫しよう	◎糸を同じ長さに切るために補助具を工夫して使う。 ★ビーズを通すためにテグスを使う。 ★糸を櫛でといて伸ばし、長さを揃える。	数学科 家庭科
E	課題解決への仕組をデザインしよう	◎つかう人を意識し製品改良のアイデアを考える。 ★作業工程を理解し、必要な作業に気づく。 ★作業工程を分け、製品づくりのため自分の作業速度や作業方法を考える。 ★丸四ツたたみを手順どおりに行う。	職業科 家庭科
A	様々な表現方法に気づこう	★配色を考える。 ★ビーズを付ける位置を考える。 ★製品のデザインを考え、描く。 ◎見栄えよく、丁寧にラッピングする。	家庭科 美術科
M	数値の関係性を見つけよう	★糸やひもの長さをそろえる。 ◎必要な材料の数を考える。	数学科
IC	仲間のよさを認め合おう	★一人ひとりの得意や良さを発揮できる工程を担当する。 ★次の工程のことを意識して作業する。 ★分からないところは質問し、できたら報告する。	社会科 道徳科 職業科

9 教室環境図



作業学習(工芸:農工芸)学習指導案

授業日時:令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)

対 象:高等部農工芸班7名
場 所:高等部3年教室
授 業 者:T1 谷 博子
T2 木村 和幸

1 題材名

「附特3TSU マルシェを開こう~社会参加を目指して~」

2 生徒の実態

本学習班には男子6名・女子1名の計7名で構成され、農工芸作業の経験に差はあるものの、互いに支え合いながら活動している。年間を通して花壇整備、花や野菜の栽培、工芸品制作、販売などに取り組んでいる。

A(1年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA:9歳7か月(R7.2)太田ステージ評価:StageIV-前期(R6.6) 昆虫が好きで自然に対する関心が高く、農作業にも意欲的に取り組むことができる。教員や仲間の言動をよく観察しており、自ら仲間に関わろうとする姿が見られる一方で、昆虫の観察に注意がそれることがあるため、活動の目的や流れを意識するよう言葉かけが必要である。
C(1年):ASD S-M 社会生活能力検査 SA:9歳10か月(R7.2)太田ステージ評価:StageIV-後期(R6.6) 初めてのことに前向きに取り組む、集中して作業に取り組むことができる。細かい作業には不器用さがあり時間がかかることもあるが、最後まで粘り強く取り組む姿が見られる。作業工程の見通しをもって行動し、仲間と協力しようとする姿勢も見られる。
H(2年):ADHD S-M 社会生活能力検査 SA:8歳6ヶ月(R7.2)太田ステージ評価:StageV以上(R6.6) 農作業に興味関心をもち、理解している作業には意欲的に取り組むことができる。安定して作業に取り組むことは難しいものの、短時間であれば集中して取り組む姿が見られる。仲間の言動をよく観察し、自らコミュニケーションを取ろうとする姿勢も見られる。
O(2年):対象生徒 ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 SA:8歳10ヶ月(R7.2)太田ステージ評価:StageIV-後期(R6.6) 何事にも前向きに取り組む、理解している作業には意欲的に取り組むことができる。不器用さから難しさを感じる場面もあるが、粘り強く取り組もうとする姿が見られる。言葉でのやりとりに課題はあるものの、自ら仲間に関わろうとする姿勢がうかがえる。
P(3年):ADHD S-M 社会生活能力検査 SA:11歳10ヶ月(R7.1)太田ステージ評価:StageIV-後期(R7.9) 作業に対する意欲が高く、注意されたことを改善しようとする姿勢が見られる。情緒が不安定な際には言葉遣いや行動が乱暴になることがあるが、作業には見通しをもって取り組むことができる。教員や仲間とのやりとりを楽しむ一方で、特定の人に対して厳しく接する場面もある。
S:3年女子 ASD S-M 社会生活能力検査 SA:5歳6ヶ月(R7.1)太田ステージ評価:StageV以上(R7.9) 植物が好きで、作業には意欲的に取り組むことができる。不器用さから作業準備や作業に時間がかかることがあるが、粘り強く取り組もうとする姿勢が見られる。自分や仲間の良いところを認めることに苦手さがあり、仲間と協力することに抵抗を示す場面もある。
V:3年男子 ASD 太田ステージ評価:StageV以上(R7.9) S-M 社会生活能力検査 SA:13歳0ヶ月(R7.1) 作業に対する意識が高く、適切に作業報告をすることができる。必要な道具の準備や片付けに迷う場面では教員に相談することができる。情緒面に課題があり、仲間と常に協力して作業することは難しいが、作業に対しては強い責任感が感じられる。

3 題材設定の理由

本題材では、「T:つながる・つくる・つたえる」の3つの「TSU」をテーマに、生徒が親しみがもてるよう「附特3TSU」マルシェとし、マルシェの開催に向けて計画的に取り組むこととした。本題材をとおして、生徒が段階的に自己肯定感を高めながら、社会との関わりを実感し、自信を持って自己表現できるようになることを目指している。活動の中では、商品の扱い方や包装の工夫について話し合いを行い、買い手の視点を意識することで、創造的な思考力や問題解決力の育成を図る。また、売り手がどのような努力をしているかを伝える方法について班で話し合うことで、協働的な学びを通じて他者理解と自己表現力を高めることができる。

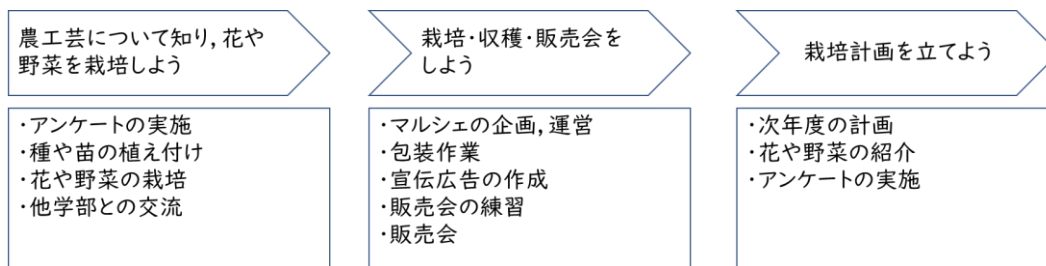
さらに、班外の人との交流や外部講師との関係づくり、校内アンケートの実施などを通して、児童生徒が社会との接点を持ち、コミュニケーション力や社会参画意識を育む機会を設けている。加えて、商品に対する感想や意見を文章化する活動を通じて、論理的思考力や情報活用能力の向上を図っている。これらの活動を通して、まずは班内で安心して自分の考えを伝えることができるようになり、次に校内で他者との関わりを通じて自分の役割や価値を実感できるようになる。そして最終的には、校外で社会との接点を持ち、自信を持って自分の考えを発信できるようになってほしいと願い本題材を設定した。

4 題材の目標

- (1) 植物の栽培に関する技術や接客スキルを身につける。 「知識・技能」
- (2) 栽培方法や販売方法について、考えを伝え合い協力して栽培計画や販売計画などを立てたり、事後に振り返ったりする。 「思考・判断・表現」
- (3) 問題や課題に柔軟に対応しつつ、自分の役割や作業に最後まで取り組む。 「主体的に学習に取り組む態度」

5 作業計画

「附特3TSU マルシェを開こう～社会参加を目指して～」



6 本時の目標

- (1) 全体の目標
- ・野菜の洗浄・計量・包装・シール貼りの手順を正しく理解し、丁寧に作業する。 「知識・技能」
 - ・作業中に買いやすさに気づき、改善方法を考える。 「思考・判断・表現」
 - ・自分の役割を意識し、責任をもって最後まで取り組む。 「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標

生徒名	個人の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・計量の手順を正しく理解し、丁寧に作業する。 ・教員や友達からの言葉かけにより、買いやすい商品になるよう計量の改善策を考える。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・包装手順を正しく理解し、丁寧に作業する。 ・教員や友達からの言葉かけにより、買いやすい商品になるよう計量の改善策を考える。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の包装手順を正しく理解し、丁寧に作業する。 ・自分から買いやすい商品になるよう洗浄作業の改善策を考える。
O(対象生徒)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から買いやすい商品になるようシール貼りの改善策を考える。 ・自分の役割を意識し、責任をもって最後までシール貼り作業に取り組む。
P	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から買いやすい商品になるよう梱包作業の改善策を考える。 ・自分の役割を意識し、責任をもって最後まで包装作業に取り組む。
S	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の計量の手順を正しく理解し、丁寧に作業する。 ・教員からの言葉かけにより、買いやすい商品になるよう計量の改善策を考える。

V	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から買いやすい商品になるよう梱包作業の改善策を考える。 ・自分の役割を意識し、責任をもって最後まで梱包作業に取り組む
---	--

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
1分	1.挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業班長に号令をかけるように促す。 ・本時のスケジュールを提示し、活動内容を確認できるようにする。 		
2分	2.今までの作業内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示し、本時の作業への意欲付けをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの作業の振り返りを行うことができたか。
4分	3.本時の活動内容や目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標【安心して買える商品にしよう】を提示し、確認できるように視覚的に提示する。 T1は、必要なものを選んで準備できるよう環境の設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を理解する。 ・自分の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や自分の役割がわかるように提示できたか。
2分	4.包装作業をする。 洗淨 計量 包装 シール貼り	<ul style="list-style-type: none"> ・T1はそれぞれのポイントを生かして、作業に取り組むよう言葉かけをする。 ・様子を見ながら必要に応じてマスクや手袋の衛生用品を着用するよう言葉かけをする。 ・T2は作業態度を見ながら、困っている場合には作業手順を示す。 ・T1、T2は、良い点や改善点をその都度、言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して必要なものを準備する。 ・商品を丁寧に衛生的に扱う。 ・買い手の気持ちを考えて作業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備や片付けを行いやすいよう環境設定できていたか。 ・困っている生徒に対して適宜言葉かけができたか。
8分	6.本時の活動を振り返る。 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するよう言葉かけをする。 ・自分の考えたことを思いだしながら、振り返りができていれば言葉で称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を仲間や教員に伝えることができる。 ・仲間の評価に共感することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表や仲間の評価に共感できるように言葉かけができたか。
2分	6.本時のまとめと次時の活動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の作業を理解することができる。 	
1分	7.挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業班長に号令をかけるように促す。 		

8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」についての関連

農工芸班では、自分たちで作業の準備に取り組み、作業の段取りや分担、効率的な作業動線を考えるなど、生徒が主体的に作業に取り組もうとする姿が見られている。生徒は衛生面や計量など各教科等で万田ことを、作業学習を通して実践し、班員同士でやり取りを経験しながら将来の職業生活の中で生かせる力として身につけることができた。また、STEAMIC 教育の視点を通して、生徒が物事を各教科等横断的に捉える力を身につけ、さまざまな場面で創造性を発揮し、自信をもって自分を表出することが可能になってきた。教科の枠を越えた学びが、生徒の内面の成長と社会的な実践力の向上につながることを期待している。

本題材の STEAMIC の捉え(単元:◎ 本時:★)

	視点	活動内容	各教科等との関連
S	ものの変化について追求しよう	◎栽培方法を知る。 ★農作物の特徴を知る。 ◎自然エネルギーや化学肥料による花や野菜の成長の変化を知る。	職業科 家庭科 国語科 数学科
T	道具の使い方を工夫しよう	★作業に合わせて適切な道具を工夫して使う。 ◎作物の特性に応じた農業用資材を使用する。 ★商品を梱包する道具を丁寧に使う。	職業科 家庭科 国語科 数学科
E	課題解決への仕組みをデザインしよう	★作業の段取りを組む。 ◎販売準備をする。 ★衛生面に気をつけて作業する。	国語科 家庭科 数学科 美術科 保健体育科
A	様々な表現方法に気づこう	◎販売戦略(宣伝広告の作成)を考える。 ★販売シールを貼る位置を考える。 ◎花壇や畑のデザインを考える。 ★良い点や改善点を発表する。	美術科 家庭科 国語科 数学科
M	数値の関係性を見つけよう	◎種や苗(株)の数を数える。 ◎販売会計をする。 ◎アンケート結果を集約する。 ◎肥料や水やりの頻度を考える。	数学科 国語科
IC	仲間のよさを認め合おう	★商品の売り方を考える。 ★互いの強みを認め合う。(できることでフォローし合う) ◎班以外の人と交流する。 ◎外部コーチとの関わり方を知る。	家庭科 道徳科

9 教室環境図

